

マドンナ会だより

第41号

2022年2月21日

発行者

マドンナ会 総務

マドンナ会創設当時のこと、 そして今後のマドンナ会に思うこと

一期生 柳原 由美子



今から四十数年前のことだったと思います。マドレ・マリア・ルイサより「マリア会やヨゼフ会のように、マドンナ会をもっときちんとした形で立ち上げてほしい！」とお電話を頂きました。マドンナ会についてのお話は、大学生だった頃にマドレから伺ったことはありましたが、まだ卒業生も少なく、マドンナ会が必要であるとの認識もさほど無く、具体的には何も動いてはおりませんでした。そんな私に業を煮やされたのでしよう。再度のお電話でした。

一期生としてお断りできることもなく、「ハイ、わかりました」と半信半疑

のままお返事をさせて頂いたことを覚えています。しかし、当時岐阜から遠く離れた千葉県の木更津在住だった私が直接行動に移せることもなく、ちょうどその頃聖マリア女学院高校で家庭科の教員として勤務していたら、一期生で親友でもあったヨッコ（2001年に亡くなられた藤井洋子先生）にお願いしてみました。ふたりで相談の結果、一期生の中でも最も強い責任感をお持ちの鶴飼八千代さんならば、マドンナ会の基礎を作るといふこの大変な仕事をやり抜いて下さるのではないかと、彼女に頼みすることにいたしました。一歳児の子育てに加え、

御主人と共に家業を営んでおられた彼女から、すぐに快諾を頂いたわけでは決してありません。一期生山内寿美子さんからの協力も得て、夜を徹して（？）の長電話の末、ヨッコが出来るだけサポートするという条件付きで、引き受けてくださったことを思い出します。こうして新生マドンナ会初代会長が誕生いたしました。

の旧校舎から新校舎への引っ越しの際に、迷子になってしまったと伺って、本当に残念に思いました。「マドンナ会だより」第一号を発行したのは関東地区在住の、第二号は中部地区在住の、そして第三号は関西地区在住の一期生の仲間たちだったと記憶しています。「発行」などとはとても言えないような素人の手作りのものでした。現在、毎年十二月に送付される「マドンナ会だより」がどんどん立派になっていくのを見るにつけ、聖マリアン女学院の発展と共に大家族になっていくマドンナ会を、「二粒のからし種のとこえ（マルコ4:30-32）」のあの聖書の箇所と重ね合わせながら、記事を読ませて頂いておりました。空の鳥が巣を作るほど大きな枝を張ったマドンナ会、これからもきつと多くの様々な方々のご尽力でもっともつと大木になっていくのだろ

うと信じます。そんな大樹となったマドンナ会、これからは「マドンナ会だより」の送付方法を、Web配信へと切り替えていかれると伺いました。発送作業の手間隙と経費を考えると、是非Web配信にすべきであり、むしろ遅かったようにさえ感じます。十数年前に「ICT（Information & Communication Technology）」が懸念され、世の中の動きもずいぶん変わりました。「機器（ハード）」に疎い」という方もいらっしゃるかもしれませんが、私たちは生きていく限り、やはり時代に取り残されないよう勉強していく必要があると思います。ただ、どんなに時代が変わっても忘れていけないのは、また私たちが求めるものは、ハードとは真逆に存在する「人と人とのぬくもり」だと思います。その意味で、まだまだマドンナ会が果たす役割は大きいと私は考えます。

このコロナ禍、人と人が集う（ぬくもりの）機会が失われ、私たちにとつてさりげない日常がどんなに大切なものであつたかを思い知らされました。マドンナ会はまさに人と人とが集う場であるはずで、マドンナ会として、卒業生が気軽に学校で集い合える機会を提供することが必要ではないかと思うのです。マドンナ会のイベントとして開催されている様々な教室や、

ポルボロン・コナツクッキー作り、そして学院祭バザーなどが、その役割を担っていると考えられます。けれども、もっと様々な年齢層の卒業生や、「ずっと学校にはご無沙汰だったのよ」というような卒業生にも多く集まっていただけだと考えます。とても難しいことのように感じられるかもしれませんが、例えば、「レクイエムの式典」です。懐かしいマドレ・先生・友人たちを、私たちは見送ってきました。その式典を聖マリアのお御堂で「レクイエムの日」と定めて、マドンナ会の行事として年に一度行うのは難しいことでしょうか。各期の幹事が、その一年間に亡くなられた友人・お父様・お母様のお名前を、学校に予め伝えま

1面より続く

ば、亡くなった人たちを偲んで、誘い合って自然に人は集まってくると思います。もしかしたら私のように遠くに在住の者であっても、偲ぶ人が本当に自分にとってかけがえのない人であったのなら、きつと出かけていくと思います。数時間で済むのでそれほど負担になることもなく、そこに人の輪が出来て、新しい関係が生まれます。自分もマドンナ会の一員であり、その家族であることを再認識できる瞬間ではないのでしょうか。

「レクイエムの式典」はただひとつの例に過ぎませんが、貴重な青春時代を共に過ごした仲間だからこそ集い合って確かめ合える「友情（ぬくもり）」のために、マドンナ会が出来ることももつとあるような気がするのです。最後になりましたが、遠く離れていることを口実に、学校に顔を出したのは二十年ほど前であり、加えて現在のマドンナ会の実情をほとんど知らない者が、勝手なことを思いつくままに記しましたこと、どうぞお許しいただければと思います。マドンナ会のさらなる発展をお祈りいたします。

スペインから

お久し振りで。

マドレ マリア・ルイサ・ロペス

マドンナ会の皆

さま、ごきげんよう。ご無沙汰しておりますが卒業生のあなただちを忘れることがありません。スペインに



帰りましてからもう既に八ヶ年も過ぎています、天使のはねのように時間も早く飛んでいく感じです。お陰様で元気で毎日過ごしておりますがそのうちに私は八十五才になることが自分自身では信じられないぐらいです。という、私の時代の卒業生もう若くないと気が付きます。私は聖マリアで過ごした二十二年間は一番幸せな年でしたと今になっても心の中で繰り返します。聖マリアの誕生と一緒に共に歩んだことは私の人生の宝物です。今になって聖マリア女学院は立派な大人になりましたが、私と最初の生徒が聖マリア女学院のベイビー期を生きました。母が自分の子供の赤ちゃんの姿を忘れないと同様に



言葉を文字どうり体験いたしました。神は時として大いなることをなさる時、最も小さきものを選らばれるのである。そのとうりです。私たちのモデルであり、保護者であるマリア様は自分の偉大さを、主のはしため“であることに歓びをもつて歌います。

日本の美しい節を思い出します。

僕の前には道はない
僕の後ろに道がある。

卒業生のみなさま、長い間のご協力本当にありがとうございます。母校を見守ってください。マリア様のご加護と祝福を一人一人のために願います。

岐阜修道院

マドンナ会の皆様

マドレ アナマリア・カレロ

ご無沙汰しておりますが、いかがおすごしでしょうか。

会長の笠井様より近況報告をということでお便り頂きましたが、皆様もご存じのように、ここ二年ばかりはコロナさわぎでマドレ達から用心深すぎる位に大切にされていて病院に行く以外、外へ出ることもない日々をすごしております。おかげ様で風邪をひくこともめつたたくなくすごしております。早く春が来てお庭に出られる日をたのしみしています。この頃はとても便利になって日曜日ミサのため

で、修道院の中で元気にすごしています。

ヘルパーさんやリハビリの先生も交代で毎日来て下さいます。日本語やスペイン語で聖書を読んでもらい、「大人のぬりえ」のご本で毎日「ぬりえ」の作業もしています。

私は日本へ来て六十余年になりますが、日本では岐阜以外の所に住んだことはなく、なつかしいこの地で卒業生と会えることも大きな喜びです。卒業生の皆さんのお孫さんも入学して下さって、この地で自分の宣教師としての生涯を全うできることを本当に幸せに思っています。二十人ではじまった小さな学校は少子化の波にゆらいで大変なようですが、イエスさまの祝福のうちに地道に日々を歩めていることの幸せを感じています。

健康な時も病いのときも、不安を抱えている時も感謝して残りの人生をすごして参ります。皆さまのことをいつもお祈りしています。

お元氣ですか

理事長

マドレ 玉腰久美子

マドンナ会会員の皆様、お久しぶりです。コロナ禍の中、いかがお過ごしでしょうか。私は相変わらず学校で悪戦苦闘の毎日を送っています。今年創立六十周年を迎える母校は私たちの時代（六期生）より生徒数は増加しましたが、近年は少子化の影響を受けて減少傾向にあります。海外の姉妹校が次々と創立百周年を迎える中で、ぜひとも県下唯一のカトリック女子校として百周年を迎えることが出来るよう頑張りたいと思います。もちろんそのころ

また、いつ頃からか定かではありませんが、「ルルドの小径」には、ロザリオを手にして「バンダアスル」（青い帯）をしたマリア様と、同じくロザリオを手にしてマリア様を仰ぎ見るベルナデッタのご像が校庭を見渡しています。このお二

校長

マドレ 信条 希望

偶然目に留まった服部剛さんの「人」という詩が疲れた心を慰めてくれました。炎の画家が描いた一枚の絵頬のやつれた青年が傾いた木にもたれ

「人」という字になっている森の幹や風の唄
そして隣人の瞳に宿る誰かと支え合い

今日の私は「人」になる

三年目のコロナ禍になりました。恐れていたコロナ第六派に入り、先日岐阜県

人に倣って、生徒たちは全員が手作りのミニロザリオを手にして、五月の聖母月にはロザリオの祈りを捧げます。

これを伝統と言いましうか。目に見えるものの向こうに、目には見えない大切なものを見透す力が生徒たちの心に育っていきます。

チャペルの側には、初代校長のマドレ・コンセブションの言葉、「幸福とは受けることではなく、ささげる心、ほほえむ心、思いやる心」が私たちの行く手を示しています。

卒業生の皆さん、人間は幸せになるために命をいた

コロナには翻弄されない覚悟で準備していきたいと思っています。卒業生の皆様に関しては、バザーや学校行事が中止され母校に訪れる機会を失い、寂しい思いをしていらつしやるのではないかと思います。皆さまの母校に対する想いを忘れず、引き続きコロナ感染防止対策を徹底的に実施し、一日も早い終息に貢献していきたいと思っています。卒業生の皆さまも一緒にコロナ終息を祈りながら共に賢明にこの困難な時期を乗り越えていきたいと思います。

だきました。みんなが「ああ、しあわせだなあ」と言える世界になるといいですね。

皆様どうぞお元気で。いつでも皆さんの母校にお立ち寄りください。心からお待ちしております。



えていきたいと思います。さて、三月には高校第五十七期生の卒業式と第三十三期生の中学課程修了式が予定されています。コロナ時代を生きて卒業していく生徒たちは、どんな困難な状況でも命を大切に、他者のために他者と共に希望を持つて耐えて生き抜く知恵と勇気を学んだと思います。そんな彼女たちの頑張りに感謝しています。そして、今日もマリアは創立者の言葉を大切に笑顔で一歩一歩進んでいます。

「前進、常に前進、神は備えてくださる」

マリア

マドレ

テレサ 礎政子

昭和五十四年から五十七年三月まで古い校舎と修道院で生活し、四十年ぶりに福富に住むようになりました。学校の前の空き地や田畑の草花雑草も品種がかなり変わっています。なにより驚いたのは、楽しみにしていた「ひばり」の声が聞けなかったことです。学校は思春期の娘さんたちの華やかな声が続いています。でも大自然の目に留まりにくい大きな変化と同じように、きつと十二歳〜十八歳頃の若者たちも今を生きている者として何かが変化していることでしょう。

今日は一月十日、成人式の日、マリアの中学校入試でした。「マリア」の生徒になろうと決める時子どもたちは心の中で何を思い期待し夢みているのでしょうか。思春期の六年間をどのように過ごすのでしょうか。

「まだ幼いからそのようなこと考えていないと思うよ」と言われそう。でも心の奥底ではきつと想い巡らしているでしょう。「マリア」

だから知ることが出来る第一の事・・・それは何でしょうか？ それは、大天使ガブリエルのお告げから始まるマリアの人生とイエスの出来事そしてヨゼフ様の事です。この聖家族の『在り方・生き方』に触れることが出来る。わが子イエスの人生、十字架の死と復活を体験した母マリアはその後どのように生き全生涯を全うしたのだろう。マリアの生徒はそれを想いめぐらすことが出来ます。わが子ゆえにマリアは波乱万丈な人生を生きました。

入学し、毎日スクールバスに乗つてくるとき『マリア様は何を考えて生きていたのだろう』と思いつつ学び卒業して欲しいと願っています。愛することの出来る人、現実が変わったように見えないでしようけれど、父母兄弟姉妹から始まってこの世界を母マリアのように愛と実生活で支え配慮できたらどんなに素晴らしいことでしょうか。

これが礎の近況報告そして祈りです。



名古屋修道院

マドンナ会の皆々様

マドレ 小島美榮子

「光陰矢のごとし」の通り月日の流れは本当に早いもので七期生の皆さまが高三の秋にこの岐阜の地にはじめて派遣されて来てから今春は五十七期がマリアを巣立たれるとのことと何と時の流れは早いものかとつくづく思います。マドンナ会の皆さまには、いかがお過ごしでしょうか。いつの間にか八十歳も過ぎ最近では学校で在校生・卒業生のお母さま方を対象に開かれて

マドレ
アンヘレス ガトン

四十五年前の春、二十五歳の私は岐阜の聖マリアの玄関に立っていました。日本到着の日、岐阜に直行したのです。数日後、名古屋に向かい、そこでもマドレに大歓迎されました。後日、大阪の尼崎修道院に属し、大阪や兵庫の日本語学校に約二年間通いました。英知大学神学部で四年間学び、先生方の多大なサポー

いる「聖書セミナー」「里親の会」で一緒に過ごして頂いてなつかしいマドンナ会の皆様がお嬢様を本校にお預け下さってご自分も活動にご参加下さる方々がたくさんいらしてなつかしい昔話をしながら聖書のお勉強に、手仕事にと一緒に過ごして頂いています。この会はM・アナマリアが始められてフィリピンの姉妹校の生徒さん方に奨学金を送ることを目的にはじめられました。時を経てM・アナマリアが「くも膜下出血症」で倒れられてからも活動の形は少しずつ変化しながらも熱心なお母様に引っぱられ

トと励ましをいただき、言葉の壁を乗り越えて卒業できました。尼崎の修道院にいる頃、歯が痛くなって隣の伊丹市の歯医者さんにくくと、受付の方が、「おいたみですか？」と言うと私は「イエエ、アマガサキデス。」と答えたりしたこともありました。今も度々、日本語は難しいなと思うことがあります。

来日七年目頃から日本での本格的な使徒的活動が始まりました。名古屋や岐阜の修道院に属し、スペイン語や聖書を教えることができました。

て本当に微力ながらも、私も一緒に参りました。多くの卒業生が昔話をなつかしくしながら和気藹々と活動して出来上がった作品を折あるごとに販売させて頂き売上げ金を有効に活用して頂くよう目的にそって寄附させて頂いております。新入生のお母様方もコロナ下で人の交わりも儘ならぬ中、お子様の学校生活の様子など聴いてほつと、されておられるようです。卒業生ってこんなに絆が強いのだとあらためて感じます。少子化のきびしい波は本校の生徒募集にも影響しておりますが、マドンナ会で本

年度、新たにマドンナ便りの発行を形をかえて紙代・印刷代・送料などをホームページ活用により削減して入試広報委員会へ奨学金として活用頂き、マリア入学を望んで下さっている未来の後輩に活用して頂けるといふご提案に協力させて頂くことにいたしました。ペーパーでのマドンナ便りは本号（四十一号）をもってひとまずおやすみいたします。又復活の時もあるうかと思えます。現会長の八期生笠井智子様へのご理解あるご協力に感謝いたします皆様方お一人ずつのお幸せを祈ります。

数年間高校の担任もしました。スペインでも教壇に立った経験はありましたが、学校の組織やシステムはかなり違っていましたので、戸惑いや困難さを感じました。それでも生徒達との楽しい日々でした。中でも、ナビもない車での家庭訪問の事が一番印象に残っています。汗っかきの私が真夏に東西南北土地勘のない地を走りまわったのは、きつと天使たちが導いてくださったおかげでしょう！そして笑顔で迎えてくださった皆さんのおかげでしょう。

最近思うこと

五期生 マドレ ヨハンナ 金聖直

私たちが喜びをもって生きる事は大切だと言われます。私たちはどういう時に喜ぶのでしょうか。やはり何か期待したことが望んでいたことがその通りになる時です。しかし逆に期待していたのにその通りにならない時があります。つまりこのような喜びは、何をどれ程期待するかによつてその喜びは変わってきます。

私達は祈る時、誰かを愛してほしいと祈りますが、本当の祈りは、主よ。私を変えてください。私が違う角度から見ることができるよう力をください。そしてどんなことがあってもいつも喜び、常に折り感謝できますよう私を変えてください。人を変えるのではなく、私が変わることです。大切なことは自分の考え、偏見、固定概念を、わきに置いて主の望まれる見方、角度から見られるよう、力と助け、導きを与えてくださいと祈ることと同時に、具体的に私なりの小さな行動を毎日の日常生活の中で実行することです。

時々「マリアは変わりましたね。」とか耳にすることがありますが、時の流れにより外面的な変化はあつて当然だと思えます。いったん現場を離れた私は“母の視線”というよりも“祖母の目”で見るようになったからかもしれません。週二日教える行く度に、コロナ禍にあつても生徒達、特に中一たちの屈託のない姿から生氣を得て帰ってくるのです。最初に出会った日本の地、岐阜と今も関わりが持てることに感謝する日々です。

私達が喜びをもって生きる事は大切だと言われます。私たちはどういう時に喜ぶのでしょうか。やはり何か期待したことが望んでいたことがその通りになる時です。しかし逆に期待していたのにその通りにならない時があります。つまりこのような喜びは、何をどれ程期待するかによつてその喜びは変わってきます。

感謝

マドレ 井上 洋子

高校五期生が三年生にな

った年、私は聖マリア女学院高校に新卒の英語教師として就職しました。三年生は一クラス、二、三年生はそれぞれ2クラスずつで、全校生200人にならない

小さな学校で、当時の校舎は残っていません。二年後、修道会に入ってから四年間を除いては、通算四十年間岐阜に住みマリアと共に歩んできました。また、中学設立から二十六年間のほとんども、中一の担任として「マドレ、マドレ！」と呼ばれながら、多くの失敗がありながらも母（祖母かな）として成長させていたできました。岐阜そしてマリアは私の故郷です。神様と皆様に感謝です。

新米教師一年目から、日本語教師“でもありました。留学生の係でもありましたから、毎冬（当時はロータリークラブの交換留学生）豪州からやって来る留学生が初めて会う時には「サムイ」としか言えなかったのに、一年後には流暢な日本

語でお別れのスピーチをして感激したりもしました。アフリカ大陸を除く四大洲の様々な国からの留学生との出会いもマリアをそして私を豊かにしてくれました。感謝です。

なり、私にとっても念願であったことの実現を喜んでいきます。マドンナ会役員と会員の皆様に感謝です。マリアを希望する生徒が一人でも多く入学しますように。最終号が出るころには、私は後期高齢者の仲間入りをしていきます。体力は衰えてもまだまだ中一の十二歳のような気持ちになることもあります。祈りつつ。



今

マドレ 三十五期生 奥村ありさ

修道院に入会して二十年

以上経ちました。過去は大変な人、人の顔や名前を覚えるのが苦手だったので、高校の頃、クラスや学年にどんな子がいて、誰と同じクラスだったのか、ほとんど記憶にありません。ただ、あまりしゃべらない私を周りのいろんな子が助けてくれたり、話しかけてくれたのを覚えています。おかげで三年間、一度も休まず毎日楽しく学校に通わせてもらいました。学校で楽しいところなんだと初めて思えたのも、マリアの

岐阜修道院

マドレ 兵頭 美香

現在、高校一年生から三年生の聖書と、高校二年生と三年生の選択授業で福祉を教えています。

毎日生徒たちに教えるが思うことは、幼いころから勉強が嫌いで部活ばかりしていたので、「勉強しなさい」と何度も言われていた私が教壇に立っているとい

高校でした。現在私は、幼稚園で働いています。スモックを上下逆さまに着ようとして困っている子どもを助けてあげたら、「先生すごい！できるんだ!!」と感動する年少児。内心（大人ですから）とつぶやき、笑う毎日です。自分も泣いているのに、「ママがいい、帰りたい」と泣く友だちを見たら、自分は泣きやんでその子を慰めてあげる子ども姿を見ると、高校であっても幼稚園であつても、マリアの子は優しいなと思います。小さな子どもには神様の言葉がストリートに伝わります。「神様が守ってくれるから大丈夫。」と一人で手術室に入った子。「イモ虫が鳥に食べられずに蝶になれますように。」

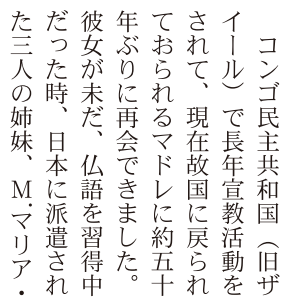
うことです。他の先生方は教師になりたいと思つて先生になられたと思いますが、私はその全く逆を生きていました。そのため、教壇に立つたびに、「本当に不思議なことを神さまはなさるな」という思いがあります。教師としてはまだ日は浅いですが、これまで出会った生徒一人ひとりを見ると、授業での反応が良く、とても素直で優しい生徒が沢山

と、生活の中で自然に祈る子。子どもの成長を間近に見ることができ、やりがいのある仕事だと思っています。私は修道院に入つて、本当にいろんなことを経験させて頂きました。この二十年の出来事を人に話すと、「それ、ドラマができるね」とよく言われます。辛いことや理解できないことがあつても、その度に神様に助けられたのを実感しています。私が高校の頃、友だちから助けられたように、今度は私が、周りの人を助けられるようになりたいと思います。まだまだ未熟ですが。カトリックの信者であつたこと、修道院に入つたこと、幼稚園で働かせてもらったこと、すべてに感謝しています。

おり、その生徒たちから多くのことを学んでいます。色々な経験をさせていただき、その中に神さまが導いてくださっていることも感じるがあります。これからの様々な場面を通して神さまが導き、助けてくださっているということを信じて進んで行きたいと思います。また、そんな素晴らしい神さまのことを生徒にも伝えていければと思います。

貴女が今は、母となり、祖母となつて、または結婚しなくとも人生経験を積んだ女性として、昔を振り返つ

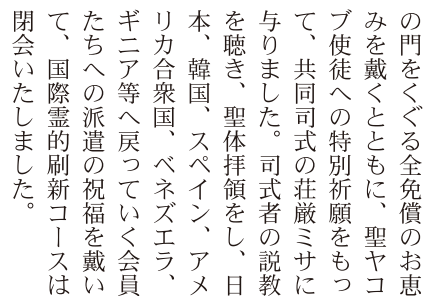
ることでしょう。また、待降節に佐藤先生や生徒会の生徒達とクリスマスツリーの飾りつけをしたことが楽しかった思い出としてフツツとかびました。いつも祈っていますよ。



局二回のアンコール公演を

いました。

開墾地を去る前日、私たちは、サンティアゴ・デ・



最後に2021年5月に神戸中央教会で洗礼を受けた方の受洗前の面接に付き添った時に、ポボン神父様からして頂いたキリスト教生活のガイドとも言えるお話しが心に残りましたのでここに要約して掲載させていただきます。

「自己のエゴによらないで流れる雲のように」、「人に見られることを意識することなく、いつも美しい青空のように」、「誘惑に対しては、聖書をもつてサタンと闘ったイエス様のように生き、「誤って道を踏み外したと感じたら、いつでも御父の家に帰るように」。

また、「様々の意見の真つ只中にあつては、一歩退いて自分で考えてみるように」。

皆様への神様の祝福と無原罪の聖母のご保護を祈りつつ、シャローム！

お知らせ

令和3・4年マドンナ会会長 〈8期生〉 笠井 智子



いつも「マドンナ会だより」を読んで頂き有難うございます。

マドンナ会会長は昭和43年の1期生から始まり10期生まできた所でまた昭和57年に1期生に戻りなるべく若い人へと降順番の期でいくように努力してきました。時に都合が悪く古い期に戻ることがあります。私で32代目となります。2年間勤めさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

「マドンナ会だより」は昭和57年の創刊号から今まで20名の会長様・当時の役員の方々の努力を経て40号まで発行して頂きました。聖マリアは今年60周年を迎えます。マドンナ会（同窓会）の役割も学校の後方支援の目的をもって卒業生全員で協力しております。今までヨゼフクラブ（卒業生父親の会）・マリア会（卒業生母親の会）とともに協力をしてきましたがそろそろマドンナ会も自立し形を変えて協力して行く時期に入りました。

今まで皆様に新聞発送に使用している費用をマドンナ会から聖マリア女学院中学生あるいは高校生の授業料等への奨学金として協力していくことが今年の総会で決定しました。新聞での発送は今回41号で最後になります。紙上最後の特集に聖マリア女学院中学校・高等学校にご尽力され関りのあるマドレスの特集になっております。近況報告をお楽しみ下さい。

次回からは、聖マリア女学院中学校・高等学校のホームページ（Web上）よりマドンナ会（卒業生）のバナーから配信いたします。費用は新聞発送の1/10程度になります。今回の41号も同じ内容ですがホームページに載せておりますので是非見て頂きますようお願いいたします。新聞で発送されないことに少し寂しさを感じますがマドンナ会も卒業生も増え、時の変化とともに形を変えます。ご理解ご協力をお願いいたします。

令和5・6年度のマドンナ会会長は16期、次は25期と元の降順に戻る予定です。

マドンナ会の行事やイベントのお知らせは、聖マリア女学院中学校・高等学校のホームページのマドンナ会（同窓会）バナー又はインスタグラム「st.marys_madonna」から配信します。行事の詳しいお知らせは3月中旬以降、コロナ禍の状況を見ながら配信します。マドンナ会にご意見ご希望等は**インスタグラムのDMの方へお願いします**。皆様の貴重なご意見をお待ちしています。4月からマドンナ会で毎月1回「聖書勉強会（講師は、6期生マドレヨハンナ）」を開催する予定です。

◆ マドンナ会会則変更

令和3年6月26日マドンナ会総会決議事項

事業活動

- 4 この会は目的達成の為に次の事業を行う。
・マドンナ会便りを年1回程度発行する。



事業活動

- 4 この会は目的達成の為に次の事業を行う。
・マドンナ会便りを2年に1回程度発行する。

◆ マドンナ会細則変更

事業活動

- 1 マドンナ会便り発行・発送は、役員会・運営委員会にて行う
発送は平成26年度（2015年度）より業者に委託する。（株式会社サルト 兵庫県姫路市）



事業活動

- 1 マドンナ会便り発行・発送は、役員会・運営委員会にて行う
発送は令和4年度（2022年度）以降聖マリア女学院高等学校ホームページからマドンナ会バナーよりWeb配信とする。



スクールバス車窓から

